

平成 29 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ー ト

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

目指す学校像	本年度の重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する
心豊かな学校	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる

3 教育指針

人みな使命あり

4 学校自己評価結果【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった 】

評価項目		評価と改善プラン					学校関係者評価
		評価	A	B	C	D	
I	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する						
	①総務部 PTAとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の幅を広げ、さらなる地域活性化に取り組む	3.5	10	5	2	0	生徒の地域活動への参加も定着しているが、今後新たな展開も必要な時期なので、学校内、地域、PTAなど話し合いの機会等をつくっていかねばならない。
	②教務部 地域の外部講師、機関との関わりを促し、各教科の動きを職員に示すことで全体のかたちが見えるようにする	3.4	8	7	2	0	類型の授業の動きを全体で共有することができなかった。今学校がどこに向かってどう動いているのか、全体での理解が必要である。定期的な研修、報告の実施をおこなう。
	③生徒指導部 地域行事に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う	3.6	12	4	1	0	多方面にわたって地域での活動を多く行っており、地域の期待も高い。今後も継続して地域づくりにつながる活動を主体的に行っていくたい。
	④進路指導部 全国地域系大学の学部学科への進学を促進する	3.2	6	8	3	0	全国に目を向ける生徒は多くなかった。逆に近畿圏にこだわって選択肢が狭くなる傾向も見られた。意識づけの機会をさらに設ける必要を感じる。
	⑤保健部 家庭、学年と連携を深めることにより、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる	3.0	2	13	2	0	こまめに家庭、学年等連絡がとられているので、学校全体での指導ができていると思う。
	⑥1年 「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、またその役割を責任を持ってやり遂げるよう指導する	3.2	5	11	1	0	個々の役割を自覚し行動へと結びつくよう指導してきたが、まだ不十分な点もあり、引き続き指導していきたい。
	⑦2年 総合的な学習の時間、地域探求を通して地域を知り、地域と連携を図り、地域へ貢献する生徒を育てる	3.4	8	8	1	0	ボランティア活動など地域にでて活動することに積極的に参加できるようになってきた。
⑧3年 3年間の総合的な学習の時間や種類の活動の振り返りをさせ、進路実現への糧とするよう指導する	3.4	7	9	1	0	創造系の取り組みとつながる進路選択をしたものについては進路実現に結びつけることができた。しかし、理学系や工学系を目指すものについては、取り組みが遅れを取り戻すことが困難であった。	
II	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する						
	①総務部 地域活動で学んだことから課題などを提唱し、活動を発展させる	2.8	4	6	7	0	学校として提唱した課題をどう地域に還元していくか、具体的に実行できるようにしていかなければならない。
	②教務部 進級、卒業等の基準を含め、教務規定全体的見直しに取り組む	2.7	2	8	7	0	年度末には、改正案を提出し、4月実施を行いたい。
	③生徒指導部 リーダー研修会等でのワークショップを通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.2	5	10	2	0	リーダー研修会における班討議(ワークショップ)は充実し、オープンハイスクールにおいても生徒主体に行動できるきっかけとなっている。今後はクラス討議で意見を表明できる生徒の育成をすすめていきたい。
	④進路指導部 地域おこし協力隊の力を借りて、グループディスカッション、プレゼンテーションの力をさらに伸ばす	3.0	5	7	5	0	地域おこし協力隊の方には面接・プレゼン指導に、積極的に入ってもらっていたが、途中頓挫する形になり残念であった。
	⑤保健部 疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、講習会などの機会をつくる	2.9	2	12	3	0	保健だよりなどこまめに発行して疾病予防につとめているが、保健講演会の内容などまだまだ吟味していく必要がある。
	⑥1年 課題提出や自学自習の習慣を身に付けさせることにより、基礎学力の定着を図る	2.9	3	9	5	0	家庭学習の動機づけに週末課題や小テストを行ったが、やる生徒としない生徒の二極化が見られた。明確な学習目標を意識づけ、基礎学力の定着に努めたい。
	⑦2年 自らの進路実現に向けて、進路目標の確立を図るとともに基礎学力の向上を図る	3.0	3	11	3	0	進路目標が定まってきた生徒も多く、目標の達成のために必要なことが把握できてきた。毎週実施している小テストをきっかけに基礎学力の向上を図っているが、家庭学習での反復の習慣がつかない生徒も多くみられる。今後も継続して、やっつけられる課題を与え、自信をつけさせることで基礎学力の向上を図りたい。
⑧3年 学校行事や授業の中で、自己の考えを積極的に発表するよう指導し、自己表現できる能力の育成に努める	3.0	4	9	4	0	村高フォーラムやスピーチの授業などを通して、プレゼンテーション能力の向上を図ることができ、面接試験等に役立てることができた。	
III	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる						
	①総務部 高校生の活動を広く地域に理解していただき、地域と更なる連帯を深める	3.3	6	9	1	0	学校の活動の理解という点でもまだまだ不足しているところがある。地域の協力を得るためには広範的なことの充実も必要。
	②教務部 各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促し、研修を行う	2.6	2	7	7	1	必要性を感じながらも、研修会を持てなかった。次年度への課題として取り組みたい。
	③生徒指導部 生徒が積極的に参加する行事(村高祭等)を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.4	8	8	1	0	生徒会を中心に学校行事を主体的に取り組み大きな感動と成長を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を、体得するような取り組みにしていこうと求めている。
	④進路指導部 AO推薦入試の志望理由書のストックを通して、自己分析を進める	3.4	8	8	1	0	次年度からハイスクールオンラインの志望理由書を利用できるようにする。志望動機について、ワークに加えて、講師を迎えて講演会・講習会を開く。
	⑤保健部 健全な学校生活を送れる環境を作るため、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う	3.0	2	13	2	0	学校全体でこまやかに清掃活動をしていただいているが、より良い清掃の方法など考えていく必要がある。
	⑥1年 HR活動や学校行事などを通して、互いを認め協力し合える良好な人間関係の構築を図る	2.9	2	12	3	0	生徒の実情に合わせたHR活動を行い、互いを理解し認め合える人間関係の構築を図った。更に思いやりのある言動やクラスの員としての自覚を促していきたい。
	⑦2年 他人を思いやり、お互いが助け合える人間関係を育て、中堅学年としての自覚を高める	3.1	4	11	2	0	学校行事において、人任せにするのではなく、率先して動き、また、協力してよりよいものを作り上げようという良い人間関係ができてきた。来年は、最上級生となるので、経験を下級生に伝え、模範となるような自覚を植え付けていきたい。
⑧3年 最高学年としての自覚を持たせ、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す	3.0	3	11	3	0	学校行事や生徒会活動においてリーダーシップを発揮し、積極的に取り組むことができた。	

・村岡高校の存在は大きい。生徒の減少によるクラス減になるとどうなるのか。何とか2クラスを維持していかないと地域での活動ができなくなる心配がある。

・卒業生が地元企業への就職を希望するような、企業見学会等の機会も設けていきたい。

・地域アウトドアスポーツタイプの卒業生の進路がたいへん気になる。

・全国募集の特色ある村岡高校であれば、学校独自の寮をつくれば、生徒募集も安心して行えるのではないかと。

・家庭学習については、小中高になるにつれて時間が少なくなる傾向が多い。家庭学習の習慣を、小中高が連携した取り組みを強化すべきである。

・村岡フォーラム等での生徒の発表内容、態度は但馬の高校生の中においては一番だと思う。

・村岡高校は大きく変わったと思う。教育活動の良さをもっとアピールしてほしい。また、大きな成果を上げていることもアピールすべきである。

・「挨拶運動」に取り組んでおられ、生徒はよく挨拶してくれるし、明るく話もしてくれる。学年が上がるにつれて、生徒さんたちの満足度も上がっている。

・現在の村岡高校には、30中学から生徒が入学しており、多様で一人一人の対応が難しい中、生徒への手厚いフォローがされている。今後も丁寧な指導で生徒を支えていただきたい。

・オープンスクールで学校訪問させていただいた。楽しそうに授業を受けている生徒の表情が印象的であった。村岡高校の教科指導、教育活動が進路に直結していると感じるが、進路実績を各中学校にもっとアピールすべきである。

・学校教育全体の中で、生徒に社会性を身に付けさせることはもちろんだが、地域との協働活動等のあらゆる機会を捉えて、さらに村高の取り組みを進めていただきたい。